



青蓮院門跡名譽門主  
会 長 東伏見慈治

会 長	東伏見慈治	評議員	坂根孝慈	園部町仏教会会長	大谷俊定
理事長	有馬頼底	〃	佐分宗順	京丹波町丹波仏教会会長	長澤智雄
常務理事	宮城泰年	〃	小松玄澄	京丹波町丹波仏教会会長	長澤智雄
〃	荒木元悦	〃	森 孝忍	福知山市仏教会会長	朝倉義寛
理 事	大西真興	〃	塩見明徳	綾部市仏教会会長	本田隆秋
〃	安井攸爾	〃	岡本龍雄	〃	〃
〃	森 泰長	〃	中村覚祐	加悦谷仏教会会長	村井俊哉
〃	佐伯快勝	〃	横江桃国	〃	〃
〃	北園文英	〃	川村俊弘	大江町仏教会会長	山田剛正
〃	北川隆法	〃	吉田清順	〃	〃
〃	坂口博翁	〃	町田泰宣	〃	〃
〃	掃部光昭	〃	田邊宗一	京丹波町和知仏教会会長	高柳秀文
〃	澤 宗泰	〃	梶 妙壽	〃	〃
監 事	山木康稔	〃	田中恵厚	三和町仏教会会長	荒山高良
〃	月沢泰信	〃	戸田妙昭	〃	〃
〃	平野雅章	〃	砂原秀輝	舞鶴東仏教会会長	松嶋康晴
		〃	谷内弘照		
		〃	長澤香静		

### ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

ご寺院各位におかれましてはご清祥のことと存じます。

さて、昨年は東日本大震災が起こり、年を越えた今もその爪痕は深いものがあります。被災地では厳しい寒の中、懸命に復興への努力が続けられています。「絆」「心をひとつに」の言葉とは裏腹にがれき処理を引き受ける自治体は少なく、東北沿岸部に降り続く雪の中に、点在したままのがれきは何を物語っているのでしょうか。

釈尊は「四諦」を説きました。「諦」は「あきらめる」ということではなく「明らかにする」という意味です。この世は苦であるという真理。苦の原因は世の無常と人間の執着にあるということ。無常の世を超え、執着をたつことが悟りの世界であるということ。明らかにすれば、自然は脅威の対象だけではなく深い恩恵も宿していることに気づくべきでありますし、効率重視の経済の源といわれた原子力に安全神話は通じないことが見えてくる気がいたします。

合 掌



理事長報告

# 竹影掃塔塵不動

(ちくえいかいをはらって ちりどうぜず)

臨濟宗相国寺派管長  
理事長 有馬 頼 底



新年を迎え、厳しい寒さの中各ご寺院をはじめ皆々様に於かれましてはご清祥の御事と存じます。

さて、当会は昨年同様、種々活動の場を広げ、新たな事業にも意欲的に取り組みました。私が理事を拝命しております漢字能力検定協会の更なる改革の一助となるべく漢字文化研究所の設立準備室が今年から立ち上がります。これは漢字文化を通して、日本中の人々にアジアの中の日本と大陸からの文化を受け入れ、変様してゆく日本の有様を深く知ること繋がるものであります。また、医療と宗教研究会では、三年目となる今年、いよいよ医師達と宗教者が病院で患者の皆さま

んと語り合う実践の場へと動きだします。これも三年目となります米国短期留学生支援ですが、日本は放射能で汚染されているという

海外メディアの風聞の中、日本をめざした彼らの姿勢には頭が下がります。一年ごとに三ヶ月間十人の留学生が関西を中心に日本仏教を学ぶことに当会は惜しめない援助をし続けるでしょう。昨年京都は御遠忌を迎える本山が多くありました。知恩院の法然上人八百〇年、本願寺の親鸞聖人七五〇年、萬福寺開創三五〇年と信者の方々が全国から上山されました。そんな中、当会では十月に西本願寺音舞台を開催致しました。世の中安穏なれという西本願

寺の遠忌テーマが東日本大震災の被災地に届くように新たな感動を与えた音舞台でありました。十一月には大分県日田市にて植樹祭を行い「遠山無限碧層々」と

刻んだ私の石碑の除幕式も行われ三百人もの方々が参加し、これからの林業と漁業に願いを託しました。また本年度、国家と宗教研究会は、第一回宗教団体に関する憲法原則について龍谷大学平野教授を中心に考え、第二回は宗教法人設立の認証の状況と官による裁量権について具体的に考究致しました。熊本から真心の澤村氏、奈良天理教本部から岩崎氏、日本基督教団京滋支部から千葉氏らを招き宗教界からは初となる

### 竹影掃塔塵不動

(ちくえいかいをはらって ちりどうぜず)

この句のあとに、「月穿潭底水無痕」という句がつづきます。「塔」

いわゆる楼閣の階段、そのところに竹が生えていて、竹の影が階段に映るわけです。風が吹かれて竹が揺れるたびに、その影があたかも階段を掃くように動く。しかし、影ですから、階段にたまっている塵は少しも動かない。また、月の光が水の深いところへ差し込んで、ちょうど水の底を穿って

いるように見えるけれども、水そのものには少しも痕跡が残らない。これは、いわゆる「行じて行ぜず」ということ。行じていながら、その跡をまったくとめないのです。真に無心の境地です。お釈迦様は、四十九年間教え続けて、「一字不説」、すなわち一字も説きませんでした。まさに行じて、行ぜず。何一つ痕跡を残しませんでした。なんとすがすがしい生涯かと思えます。ほんとうの「無事の人」とはこういう方を言うのです。

皆さまにはこの一年、どうか良い年でありますように切に願う次第でございます。





## ヒロシマ、ミナマタ、そしてフクシマ

— 震災・原発事故後の日本を考える —

龍谷大学教授  
京都大学大学院客員教授  
宗教と政治検討委員会委員

田 中 滋

### はじめに

ヒロシマ、ナガサキ、ミナマタ。これらは、日本の近現代史において起こった惨劇によって世界的に有名になった地名である。そして、残念でならないことに 2011年3月11日の東日本大震災を原因として起こった福島第一原子力発電所の事故によって、フクシマがその名をここに連ねることになった。

スリーマイル、チェルノブイリ、フクシマという原発事故の系譜は、ヒロシマ、ナガサキ、ミナマタ、フクシマという日本の惨劇の系譜を辿ることによってはじめて理解でき、またその理

解を出発点としてはじめて日本の惨劇の系譜を断ち切ることができる。

### 「国内植民地」と原発立地

先日、八ッ場ダムの建設再開が民主党政権によって決定された。八ッ場ダムに限らず、ダム建設問題においては、その計画段階から賛否をめぐって地元の意見が激しく対立する。果ては親兄弟までもが対立し相争う修羅場が展開される。反対派は徐々に切り崩され、最後には建設が強行される。当然、札束も飛び交う。しかし、それを心の底から喜んで受け取る者は誰一人としていない。

修羅場を経験した地域で

ダム問題の社会調査を行なうことは至難の業である。

反対運動が継続している場合には、反対派の人々は雄弁であるが、首長などの有力者を除けば、賛成派の人々は私のような他所者に口を開くことはほとんどない。そして、建設が強行された後では、かつてどちらの立場であったかを問わず、その苦い経験について語ろうとする者はいない。

原発建設問題の経過もほとんど同じである。反対派の人々は原発の危険性についての情報を旺盛に集め、建設反対の論陣を張り、賛成派の人々は原発がもたらすはずのバラ色の未来を信じ、危険性には目をくれようともしない。認知上の不

協和を引き起こす情報には両者ともに耳を貸さず、対立はますます深まり、地域共同体は四分五裂し、解体してしまふ。

ダム建設にしろ、原発建設にしろ、修羅場を経験するのは、都会の人々ではなく、いわゆる「田舎」の人々である。都会の人々は、水や電気がそうした修羅場を経て生み出された八咫われたものVであることを知ることもなく、まさに湯水のごとくに使い続ける。

「そんなに安全で便利だ」というのなら東京に作ればいいじゃないか」と叫ぶ『東京に原発を！』（広瀬隆 1981年）がまさに示しているように、ダムや原発、さらにはゴミ処分場などの

迷惑施設は、つねに「田舎」に作られてきた。そして、一方では、豊かさを誇示する大都市は、高度経済成長の時代には「金の卵」と称して若者を「田舎」から奪い、「田舎」に広大な過疎地を生みだしてきた。そして、その過疎にまさにつけ込んで、さらなるダムや原発が押し付けられてきた。帝国主義時代に列強と呼ばれた国々は、広大な植民地から収奪した富によって、国内での近代化を押し進めた。また、世界の模範とされるイギリス民主主義は、そうした植民地支配がもたらす富の上に成り立っていた。それは、かつてのギリシャが奴隷制の上に民主主義を作ったのと同じである。

イギリスと比べ大規模な植民地をもたなかった戦前の日本は、「田舎」と呼ばれる国内の周縁地域をあたかも植民地のように看做し収奪することによって、都市と産業の近代化を押し進め、国力や軍事力を増大させてきた。『女工哀史』が展開された「国内植民地」の上に日本の近代はある。そして、「田舎」に限らず、大半の国民は、現実には「国民」ならぬ「国内植民地人」である。第二次大戦下の軍部による兵士の躊躇なき消耗は、まさにそれを物語っている。広島や長崎への原爆投下も、国民の命を軽視し戦争終結を遅らせた結果としての惨劇に他ならない。戦後、植民地を失い領土

が三分の二に縮小した日本は、戦前ほどに過酷なものではないしろ、やはり国内植民地化を強化することによってさらなる近代化を押し進めた。しかし、今の象徴的存在であるダムや原発は、土砂をダムにため込むことによって海岸侵食を引き起こし日本列島をやせ細らせ、またその事故によって東日本を広範囲にわたって放射能汚染させてしまった。まさに『日本沈没』である。

### ミナマタの教訓を生かせるか

野田首相は昨年12月に原子炉が「冷温停止状態」となったと発表した。しかし、

福島第一原子力発電所から放出されたセシウム137（半減期30年）は「広島原爆168・5個分」（政府試算）に相当する。公害問題の中でも土壌汚染は本場に厄介で、たとえば旧足尾鉱山周辺からの鉱毒流出は今も続き、下流の農地では半永久的に汚染土壌の除去が必要となっている。それが放射性物質による汚染であるならば、除去（除染）の厄介さは想像を越えている。被曝被害が始まるのはまさにこれからなのである。そして、その際、重大な問題となるのが被曝被害者の救済や賠償である。

日本には世界的に有名な水俣病の経験がある。水俣病の発生確認は195

6年であるが、被害者の救済を求めている裁判闘争はなんと2010年まで続き、厳密に言えば、まだ決着していない。その争点の中心は「認定」問題で、政府は多くの水俣病患者を認定せず、切り捨ててきた。水俣病のように症状に特異性がある場合ですらこれである。被曝被害の場合、それがガンの発症という形をとるときには、それを被曝によるものと断定することは困難となり、多くの被害者が被害者として「認定」されることなく泣き寝入りを強いられることになる。ましてや、水俣病の認定問題が高度経済成長期における問題であったことを考えるとき、巨大な財政赤字を抱えた現

在の政府がどこまで被爆被害者の認定に後ろ向きになるのかは予想にたやすい。被曝被害者への理解を深めると同時に、救済や賠償を速やかに行なう制度的な枠組みを是非とも構築しなければならぬ。

もちろん、津波被害を含む震災からの復興が待ったなしの課題としてある。政府が、そしてわれわれが果たすべき責任と達成すべき課題はあまりにも大きい。

### グローバリゼーションと国民国家の黄昏

では、このように重い責任と大きな課題を、政府は、

そしてわれわれは、どのような環境の下で遂行している。

それだけではない。現在、グローバリゼーションをもっとも謳歌しているのは、人々ではなく、心をもたない貨幣と資本である。グローバリゼーションが市場経済を世界の隅々にまで行き届かせ、貨幣と資本の力を増大させ、それがグローバリゼーションをさらに押し進めるといふ悪循環が起きている。

貨幣と資本は集中・差異化・格差を好む。それゆえにグローバリゼーションは、国家間の格差ばかりではなく、個人間や地域間の格差を押し広げていった。昨年9月にアメリカで始まった抗議運動「Occupy Wall Street（ウォール街を占拠せよ）」が掲げる

「We are the 99%」は、瞬く間に格差に苦しむ全世界の人々のスローガンとなった。加速化したグローバリゼーションは、たった20年で世界を大きく変えてしまった。

「政治」とは本来「再配分」を意味し、「権謀術数を練り広げる」ことではない。そして、政治が打ち出す「政策」とは、「どこから何を集め、どこに何のために配分するか」を決定することに他ならない。身分制が廃され、平等な国民が生まれ、国民が政治の主役となった近代民主主義国家においては、国民の間での富の平等配分が重要な課題となった。それゆえに、

「We are the 99%」といふスローガンが「自由と民主主義」を奉じているはずのアメリカを発信地として世界のスローガンとなったことの意味は大きい。その意味するところは、国民国家の「政治」が機能不全に陥っているということである。

グローバリゼーションの進展とともに、貨幣と資本は、国民国家の壁を突き破りわがもの顔に行動している。先進国の産業資本は、低賃金労働を求めて工場を後発国へと移転し、産業の空洞化を引き起こし、また、低価格の商品が後発諸国から流入し、農林業やさまざまな中小の地場産業が廃業へと追いやられた。大量の失業者の創出である。「国

内植民地人」として苦しいながらも働くことができていた人々は、まったくの失業者となる。また、農地はあっても耕されず耕作放棄地となり、山に木があっても伐採されず「ただの山」となる。日本を含めた先進諸国においては、もはや国内植民地が成立し得なくなった。こうして先進諸国の政府は、財源を徐々に失い、財政赤字に陥り、かつてのように相対的に自己完結的に政治（再配分）を行なうことができなくなっている。

一方、後発国は、市場経済が世界の隅々まで行き渡った結果、今や強国の暴力（軍事力）によって強引に植民地化されるのではなく、



平和裏に植民地化され、平和裏に収奪されるようになった。その収奪主体がもはや強国ではなく、貨幣と資本だからである。

貨幣と資本の前に、先進国、後発国を問わず、国民国家の政治は機能不全に陥ってしまう。国民国家内部の周縁地域を国内植民地としてきた先進国の政府にとって、失業した「国内植民地人」の存在価値は低下し、援助を必要とするお荷物となる。政府にとって国民の価値低下が進んでいく。

### 震災復興への道のり

しかし、国民こそが国民国家の主役であり、もつとも価値の高い存在である。

いかに復興への道のりが険しくとも、国民が主役であることを忘れなければ、必ず復興はできる。否、国民が主役であることによって初めて復興は可能になり、

ヒロシマ、ナガサキ、ミナマタ、そしてフクシマと幾度となく訪れた惨劇の繰り返しを防ぐことにもなる。

今日日本社会に求められているのは、国民を主役とする社会システムの構築である。まず挙げておきたいのは、愚民化教育の廃絶である。学ぶことばかりを求め、学ぶ能力によって人間を序列化し、考えることを軽視する教育のあり方を変える。従順な国内植民地人を作り出す愚民化教育は、パラドキシカルではあるが、最後

には指導者をも愚かにし、社会を重大な危険に曝す。

まさに「学びて思はざればすなはち罔し」である。数の論理にうつつを抜かすだけの政治家や自己保身に汲々とするだけの官僚を見れば一目瞭然である。また、インターネットの発達した現在では、愚民観にもとづく政府やマスメディアの情報隠しは、政府やマスメディアへの信頼を失わせ、場合によっては、政府やマスメディアを死に至らしめる。愚民化政策は自殺行為である。

二つには、低環境負荷社会の構築である。「国破れて山河あり」(杜甫)から「国榮えて山河なし」(A・カー)へ、そして、「国衰えて山

河なし」では困る。ダムや原発事故によって傷ついた山野河海の生態系を豊かに再生し、その豊かさを享受

できる社会システムの構築を目指す。今は、八ッ場ダムのような新たなダムを造る時代ではなく、アメリカではすでに始まっているダム撤去の時代である。ダム撤去によって土砂と有機物を海にまで送り届け、海岸侵食を食い止め、磯枯れに苦しむ海に豊かな生態系と漁業資源を再生する。そうすれば、たとえば地中海からクロマグロを買い付けるなど、世界中から食料品を買い集め、フード・マイルージの大きい食品を食べる必要はなくなる。

再生エネルギーへの転換

は、低環境負荷社会への重要ではあるが一つのオプションなのであり、決してすべてではない。耕作放棄地を農地に戻し、山から木を伐り出す。さまざまな試みがなされるはずである。低環境負荷でありながら人々が豊かに暮らせる社会システム構築は夢物語ではない。日本は、震災と原発事故とを契機として、そうした社会システム構築のパイオニアとなることができる。

三つには、貨幣と資本の暴走を止め、環境問題や貧困問題にグローバルに政策展開をする「世界政府」の構築である。荒唐無稽と思われるかもしれないが、現在の国連よりも強力な世界政府ができなければ、気候

変動を抑止することもできないし、格差の広がりや国民国家の政治の機能不全による戦争を回避することもできない。FTAやTPPは貨幣と資本の暴走を助長するものであり、FTAの延長上にあるEUのさまざまな危機はまさにその暴走の結果でもある。FTAは世界政府への第一歩では決してない。

最後に、宗教の存在理由について。宗教は、歴史上、ときには暴力(軍事力)とまた貨幣や資本と手を結び、抑圧や惨劇を、あるいはまた社会進化を生み出してきたが、世俗化の進行とともにより<純粹>な存在となり、逆説的ではあるが、暴力(軍事力)や貨幣・資

本の無意味さを純粹に批判し、それらと対峙できる立場に辿り着いた。数を制すること、人を支配すること、貨幣や資本の権化となること、消費(商品)の奴隷となること。これらを相対化し、人々に対抗的価値基準を提供する役割である。貨幣や資本に弄ばれる煩惱へのアンチテーゼとなり、倫理の源泉となる役割である。

このように考えれば、グローバル化の進行し、貨幣と資本が暴走する現代こそ、煩惱の滅却を説く仏教の重要性はますます高まっていることになる。日本の人々は仏教を空気のように見做しているが、その存在価値が十分に再評価

されねばならない。海外の心ある人々が仏教に注目するのはそのためである。そして、仏教の存在意義を人々に知らせ、悟らせるといふ重要な責務を負っているのが僧職者なのである。

### おわりに

今すぐ復興に必要なことは、人々の努力、被災者の、ボランティアの、そしてあらゆる人々の努力であることは論をまたない。しかし、「ガンバレ日本」の掛け声とその勢いだけで復興に取り組み、新たな社会システムの構築を怠るならば、惨劇が繰り返されることになる。それははつきりとしている。



立命館大学理工学部教授

## 山 崎 正 史

## 京都の景観の変遷と今後の課題について

京都の景観の歴史は新年に語るにふさわしく、世の平安を願う「平安京」として始まった。奈良から長岡を経て山城盆地に遷都された桓武天皇の「平安」への思いが、その後の京都の景観形成に、それと意識されなくとも、少なくとも明治時代頃までは反映されてきたのではなかっただろうか。与えて頂いた紙面の中で、その伝統の一つの系脈を大括りに素描してみた。

平安京建設から室町時代まで、景観の歴史を振り返れば、それは現代の言葉で言えば格差社会の景観というべきか、立派で高大な建

築群と、粗末な庶民の住宅とで構成されていた。都へとその正面であった南から

入ってゆくなら、まず羅城門があり、左右に東寺西寺、ついで朱雀大路の左右に外国の賓客を迎える鴻臚館、大路の最北端には朝堂院、豊楽院、内裏などの聳える大内裏があった。その周辺に貴族の邸宅群が位置していた。ここで注意すべきは、

巨大なモニュメントは朱雀大路を主軸として壮大な都市デザインを形成していた点である。もう一つの大きな特徴は、平安京が緑の都市であったことだ。西欧の都市は建築が連なりその塊りが都市であった。一方平

安京の大きな面積を占めた貴族の寝殿造り住宅は、渡り廊下でつないだ建築群とその南に広い庭園を有すものであった。西欧に比べれば、空間で透けすけの、緑豊かな田園的とも言うべきほどの都市であった。それが周囲を三山に囲まれて、自然とともに生きる都市であったと言えるだろう。

皇族貴族は三山の麓に別業（別荘）を営み、そこに

広大な庭園を形成し自然と文化の融合を楽しんだのであった。それらの別業の多くが後代に寺院境内となつて継承された。禅宗寺院は境内と周辺に十境を定め、景観に意味を加えた。こう

して京を囲む三山の麓には宗教的で美しい庭園的風景が配置されたのであった。

京の都市景観は権力者の施設と宗教施設が主となり、庶民の町家が従となり、それらが郊外の自然に囲まれて存在していた。

応仁の乱による戦火は各所で建物的大小を問わず焼き払い、都市デザインは失われ、その偉容は損なわれたことであつただろう。そこにも足利管領邸や御所をはじめとする貴族の邸宅群が上京にあり、庶民の住宅群が下京にあるという景観構成があつた。今でも時に言われる京都の「北尊南卑」の考え方はこの頃に固まっ

たのであろう。歴史を知ることには無意識の因習を反省させてくれる。

戦国時代を終焉させた豊臣秀吉は3つの巨大な建築物を京にもたらした。一つは彼の城郭「聚楽第」。史料によれば城郭的性格と華麗な宮殿的性格の両者を兼ね備えるものであつた。注目されるのはその敷地で、天皇の御所の真西に位置し、およそ平安京の内裏のあつた場所であつた。聚楽第は秀吉こそが帝王であると示そうとした自負と野心を窺わせる。彼はまた本願寺（現西本願寺）に土地を与え再興を許し、その敷地中心から真つ直ぐに鴨川を

越えた地に、方広寺大仏殿を建設した。幅こそ東大寺の大仏殿に及ばないものの、50メートルを超えるその高さは奈良を凌いでいた。京の町の北に秀吉の世俗権力のモニュメントが聳え、町の南には宗教的モニュメントが東西に対面して存在し、都市の大きなデザインを構成した。

聚楽第は不運な秀次の失脚とともに間もなく姿を消した。南向きに建設されていた聚楽第敷地の真南に、徳川家が今度は東向きに二条城を建設した。また東山に知恩院を再興した。山門とその前の大参道は真西に向くのでなく、北西に向き

を振っている。その線の先に二条城天守が存在した。知恩院整備には町の防備を固める目的も兼ねていたと言われる。徳川家もまた、京の町で世俗権力のモニュメントたる城郭だけでなく、宗教施設を対置したのであつた。八坂神社や清水寺も相い次いで整備され、東山には寺院群が並んで、京は応仁の乱で失われた宗教的景観を再び得たと言えよう。

京の町を眺めたとき、特別に目につく巨大なモニュメントは、方広寺大仏殿と二条城天守であつただろう。江戸時代初期の景観を伝える舟木家本洛中洛外図



## 老病死を飾る「知足と利他」の徳へ

…京都発『医療と宗教研究会』の今後の課題について…

中 野 東 禪



「遠くの親戚」に陥る 日本的家族

古い友人で、今は故人になったが、内視鏡メスを考案した医師がいた。その医師から教わったのが「遠くの親戚」という言葉であった。

「遠い」とは血が遠いのもなく、距離が遠いのもなく、「愛」が遠い親戚のことであるという。日頃疎遠になっていたり、親族としてやるべきことをしていない「愛の不充足・欲求不満」な親族のことである。家族の病気が重くなると慌てて駆け付けるが、日頃の愛の不充足を穴埋めしたくて「なぜ手術しないの」「もっといい医者があるんじゃないの」「もっといい薬があるんじゃないの」と、患者の気持ちも構わず過剰医療を要求するのだという。それに対して、日頃、患者

の「いたみ」をみて、しかも、するべきことをしている家族は「患者が希望するようににしてあげたい」と言えるのである、という。

この「遠くの親戚」感情が過剰医療を要求する根っこにある。

ロスアンゼルスホスピスで、日本人家族の特徴について聞いたら、「ガンだと分かると、①家族が集まって泣き、②薬を拒否する」というのである。それは、①他者依存的な精神態度に陥り、②医学が通用しなくなったら生命の自然治癒力強化の方向へ極端にブレてしまう、という意味であった。

その特徴は「自立した知性の喪失とそれによる甘え」であろう。

モノ中心の生活から  
内心の徳へ深化する時代へ

昨年、東日本大震災・大

津波という体験は、全世界とくに日本人に、自然の暴力の前では人間は無力であるということに染みて実感して、自然に対して謙虚にさせられたと言える。しかし、同時に自然の破壊とそれによる犠牲者の「死の意味」を生き残った人達は引き継ぐ責務があるということをも自覚させた。

しかし、同時に、生き残った人は科学技術や経済や人の和（輪）で再建するのが亡き人への義務であり命のリレーであるということも明確にさとした。

「人は過去を変えることは出来ないが、その意味を変えようとする」という言葉があるが、喪失したものは帰らないが、新たに築くことが出来る。その築き方は、高度経済成長時代の物量中心の再建ではなく、七十億人時代の宇宙船地球号の中で、有限な自然の中

はその二大モニュメントを屏風の両端に据えて、大きな景観構成を描いている。宗教的モニュメントと世俗的モニュメントが対峙的に聳えている、京はそういう町であった。寛延三年（一七五〇）に二条城天守が落雷で焼けるまでおよそ一五〇年間、その風景は続いた。それから約五〇年後、方広寺大仏殿もまた落雷で消失した。かくして、江戸時代後期には京の町は低く連なる町家や邸宅群と、各所に大屋根が聳える寺院群からなる都市景観となったのであった。

戸時代初期になると急速に立派な町家に発展した。格子の形をはじめ多様な意匠が展開された。やがて江戸時代中期以後は多様さより洗練を重んじて、個性を残しながらも互いに似た形の町家に収斂していった。それは「町」の形の収斂でもあった。現存する町家群は幕末の元治元年の大火後、明治時代になお伝統を継承して復興されたものである。ここで注意したいのは、日本の町家や民家の端正こめた作りの良さが示しているのは、数十年もてば良いというような疎かな気持ちで建てられたものではなかったということである。島

原の角屋は三百数十年の歴史を有しているし、それ以上古い町家・民家が日本の各地に現存している。西欧文化の理解不十分なままに、日本の伝統を蔑ろにして近代化を進める過程で、木造建築を寿命短い仮初めの建築とみなし、それ故の混乱こそ日本の伝統ともみならずような誤解が生まれるかに思われる。

現在の景観の混乱は、見かけの建築デザインにも勿論認められようが、それ以上に、互いに他を尊重し気を配って建てるという「まぢづくり」の姿勢を失ったことにあるのではないか。伝統的都市環境をなお留め

る希少な都市として、京都は見かけだけでなく、町の姿かたち、すなわち人が良い関係で寄り集まって住み活動する町の形を、伝統の中から学び他都市に先駆けて実現し示す責務があるように思われる。また、京都が多くの観光客を引き寄せ、その魅力は、せちがらい商業的競争の景観ではなく、宗教的諸施設と町並みと自然が融合した都市景観の伝統があり、それ故に心の癒やしがある今日なお得られるところにあるのではないだろうか。そのことは今後のまちづくりの中で、深く大切にすべきことに思われる。

### 「平和茶会」の願い

平和茶会実行委員長  
鶴見大学国際交流センター 准教授

永 坂 哲



平成二十三年六月二十三日、銀閣慈照寺において、東日本大震災復興支援並びに難民支援のための「平和茶会」が、参加者六百四十人を得て開催されました。集まった寄付金は総額壹千七百五十九萬二千二百二円に達し、東日本大震災復興支援並びに難民支援活動に寄付をさせていただきました。開催に当たりまして、お力添えを下さった三千家様、ボランティア協力を賜った銀閣慈照寺様、席主の有馬頼底様 林屋清三様、オークションの作品提供を頂いた美術家・工芸家、関係各位、そしてボランティアとしてそれぞれの立場で

支えて下さった百余名の方々には、心から感謝致しております。茶の湯を社会貢献に繋げる、それを日本伝統文化の中心地京都、銀閣慈照寺で実現することができたのが「平和茶会」でした。開催に関する活発なメディア報道が、社会の注目の高さを感じさせました。振り返りますと、三か月という無謀とも言える短期間の準備で、この大茶会が実現できましたことが夢のように思われます。私の唯一の自慢である体力と、お茶に造詣が深く志の高い周囲の方々のお知恵の歯車が、うまくかみ合った結果であると信じて

おります。それにしましても、これほど大勢の人々を結集させるに至った「平和茶会」の魅力とは一体何だったのでしょうか？「平和茶会」に賛同して関わって下さった人それぞれに、思いは様々であったと推察致しますが、そこにはまた、これらの思いを繋ぎ留め、包み込む崇高で偉大な知・情・意が働いたのではないのでしょうか。あの未曾有の大災害をもたらした東日本大震災から早や九か月が経ちました。日本人はこれまで以上に「日本国」や「日本人であること」を強く意識するようになりまして。被害の甚大さ

理性志向	(1) 合理主義	モノ中心志向	(2) 他者依存主義
	(3) 知性主義		(4) 甘え的精神態度
ココロ志向	他者依存志向		

で節度ある再建をしようという自覚が深く静かに広がっているように見える。それは「知足の生き方」といっていいと思う。それを京都仏教会は「現代への提言」として行こうとして、研究会を行ってきた。近代的な合理主義には、(1)モノ中心志向+理性主義、(2)モノ中心志向+他律的集団依存主義がある。それに対してココロ主義には、(3)ココロ志向+知性主義があり、(4)ココロ志向+他者(カミや霊界)依存主義、の四つのパターンがあると考えられる。このうち、(3)ココロ志向+知性主義が「内心の徳と連携」する二十一世紀のあり方であろうと予見できるのである。

現代医療と患者たちは「知足」へと向かいつつある。「日本死の臨床研究会」は、三十数年前から「ホスピス」運動を進めてきた。その考え方は「キューアー(治療中心)からケアー(看護中心)へ」というものであった。治療のために痛みは我慢しなさい、から、患者の大切な時間をよかったにするための鎮痛医療の重視へと動くもようやく広がりつつある。それと足並みを揃えて進んだものに「尊厳死」運動がある。末期になった時、生活の質(QOL)を大切にして、必要以上の過剰な医療は節制しようという運動である。こうした流れは、緩やかではあるが多くの医療に現れてきている。一方で、生殖補助医療分

野では技術の進化で従来の家族関係のワクを超える動きもある。そうした夫婦の願望に日本社会はどう対応したら善いか迷っているのが現状であろう。さらには、脳死・臓器移植医療(あるいは心臓死後の提供：昭和三十年代に法制化されている)では、多くの透析患者の苦悩を解消し医療費を軽減する可能性と、死生観との葛藤の間に挟まって明快に答えが出ない。今の透析生活が「知足」になるのか声に出しては希望出来ないが移植医療を受けることのほうが「知足」になるのか、国民はまだ霧の中で迷っている。

#### 知足の徳は利他の徳

お釈迦様の最後の説法は「遺教経」といい、後半は「八大人覺」という。その

第一が「少欲」で、第二が「知足」である。解説では「少欲」は「未得」のものに対する節度であり、「知足」は「既得」のものに対する節度だという。もちろん少欲と知足は一体でもある。そして「満足する節度」ということは有限な資源を他者と分かち合う目線でもあり、医療資源にも、地球上の物に対しても、環境破壊に対しても「放蕩」する自己中心主義を超える道であり、七十億人が支えあう二十一世紀的生き方学だということになるのである。そうした人間的な徳を「支え愛」の文化として、京都から発信していきたいと願い、まず京都人に呼び掛けようという試みなのである。ありがとうございました。



が「国難」という言葉を想起させると共に、思いがけなく多くの国々あるいは海外の人々から、物心両面で支援を受けています。こんなに日本が世界の人々から愛されていたのかと驚きます。

世界に愛される日本の良さ、魅力はいったい何なのでしょう。か？それらは地震、津波と共に簡単に失われてしまったのでしょうか？今こそ日本の真の強さを再発見し、原点に立ち返る時ではないでしょうか。長い日本の歴史の中で培われてきた日本文化、それが平時においてのみ輝くのではなく、国難においてこそ輝いて欲

しい。国難において力を発揮し得てこそ、真の日本文化と呼べるのではないのでしょうか。畏れ多くも、茶事に無調法な私は茶の湯の文化にその難題をぶつけてみたかったです。自然を愛で、おもてなしと思いやりの心が宿る茶の湯の文化に。

平成二十二年二月より、私の企画で、鶴見大学が国連高等弁務官事務所（UN HCR）および特定非営利法人なんみんフォーラム（FRJ）と連携して、日本に滞在する難民申請者（庇護申請者）を対象とした日本初の無料歯科治療支援を始めました。それは、日本に於ける難民支援活動

れていなかったのです。今、

日本人全てに必要なことは、思いやりという日本力を見つめ直すことではないでしょうか。

こうした難民支援の話を知って、「茶の湯を愛する一人として、自分にも何かできないだろうか？」と、私に声をかけて下さった方がおりました。「茶の湯を社会貢献に繋げる」という私の願いはこの時始まりました。そして平成二十三年三月のある日、ご一緒したお食事の席で、有馬様がいつものあの穏やかでゆったりとした調子で口にされた「・・・平和・・・」という言葉の響きを耳にした瞬

間、私は、これで決まりだ、

「平和茶会」だ、と思ったのでした。遠慮がちにこの四文字を投げ返す私に、笑顔で一言「そうです」とご同意下さったのが「平和茶会」命名の発端であったと記憶しています。更なる感激は、有馬様が「場所は銀閣寺にしましょう。銀閣寺の全てをボランティアで提供しましょう。」と心強いお言葉を続けて下さったことでした。仏僧として、日本全国のみならず時には海外にまで行脚して幾多の社会貢献を経験してこられた有馬様の、善行の一環としてお申し出下さったものと私なりに推察致しており







事業・活動報告

平成二十三年一月一日〜平成二十三年十二月三十一日

\*は当会主催の行事・人会

平成二十三年度

- 一月 六日 西陣織工業組合新年総会出席 於 西陣織会館
- 一月 十七日 京都中央葬祭業協同組合新年懇親会出席 於 木乃婦
- 一月 二十日 全日本仏教会評議員会・参与会出席 於 ザ・プリンスパークタワー東京
- 一月 二十一日 京の七夕実行委員会幹事会出席 於 京都商工会議所
- 一月 二十三日 大阪府仏教同友会新年総会出席 於 大阪リーガロイヤルホテル
- \* 一月 二十六日 『京佛』新年号会報発送 於 仏教会事務所
- 一月 三十日 京の美食委員会 有馬理事長講演 於 京都ロイヤルホテル
- 二月 九日 全日本仏教会加盟団体顧問弁護士連絡会出席 於 泉涌寺
- 二月 十日 全日本仏教会同和・人権問題連絡協議会出席 於 メルバルク京都
- 二月 十三日 医療と仏教(宗教)公開シンポジウム 於 承天閣美術館
- 二月 十四日 京都市観光協会五十周年記念式典出席 於 京都国際会館
- 二月 十九日 インドハンセン病支援光の音符活動報告会出席 於 承天閣美術館
- 二月 二十日 第四十二回日本書芸院教養講座 有馬理事長講演 於 大阪国際交流センター
- 二月 二十五日 知恩院伊藤唯眞管長普山式列席 於 総本山知恩院御影堂
- \* 三月 四日 佐賀市社会福祉協議会へ有馬理事長寄付金贈呈 於 佐賀市
- 三月 十日 京都市観光協合理事会出席 於 リーガロイヤルホテル京都
- \* 三月 十一日 宗教と政治検討委員会開催 於 京都全日空ホテル
- 三月 十二日 常務理事会開催 於 京都仏教会会議室
- \* 三月 十三日 J.R.東海「賀茂別雷神社に想いを寄せて」世界遺産対談開催 於 賀茂別雷神社
- 三月 十三日 東山花灯路・祈りの灯り開催 於 東山界限
- \* 三月 十六日 春季彼岸焼骨灰供養法要開催 於 永観堂禅林寺
- 三月 十八日 京都市深草墓園春季慰霊式典出席 於 深草墓園
- \* 三月 二十二日 関西野生生物研究所へ寄付金贈呈 於 京都仏教会会議室
- 三月 二十三日 古典の日推進委員会出席 於 京都ロイヤルホテル
- 三月 二十三日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員会出席 於 京都ロイヤルホテル
- 三月 二十七日 先代教会長三宅龍雄大人五年祭列席 於 金光教泉尾教会
- 三月 二十九日 京都府宗教連盟役員会出席 於 立正佼成会
- 四月 二日 江里康慧・江里佐代子展オープニング出席 於 東京・和光並木館

- \* 四月 八日 おしよかさまを讀える夕べ開催 於 京都全日空ホテル
- \* 四月 二十一日 こどもはなまつり 於 仏教保育園協会
- 四月 二十二日 聖徳太子一三九〇年法要列席 於 奈良・法隆寺
- 四月 二十七日 京の七夕実行委員会幹事会出席 於 京都市役所
- 四月 二十八日 京都仏教幼稚園協会花まつり園児大会出席 於 京都會館
- 五月 十三日 第二十六回国民文化祭京都市実行委員会第三回総会出席 於 京都市国際交流会館
- 五月 十六日 清水寺国家安泰世界平和祈願献花祭列席 於 清水寺
- 五月 十八日 社会を明るくする運動京都府推進委員会出席 於 平安会館
- 五月 二十日 ハンブルク浮世絵コレクション展開会式出席 於 承天閣美術館
- 五月 二十一日 慈照寺開山忌列席 於 慈照寺
- 五月 二十四日 日田西山妙音弁財天法要列席 於 日田市
- 五月 二十八日 文化遺産を未来につなぐ森づくりシンポジウム 於 ヒルトン小田原
- 五月 三十一日 全日本仏教会第一回評議員会・参与会 於 リーガロイヤルホテル京都
- 六月 二日 大阪府仏教同友会出席 於 金閣寺・順正
- 六月 四日 第二十九回宗教法制研究会・第六十二回宗教法学会出席 於 龍谷大学深草キャンパス
- \* 六月 七日 第八十五回理事会開催 於 京都仏教会会議室
- 六月 八日 古典の日フォーラム出席 於 金剛樂楽堂
- 六月 九日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員会出席 於 京都東急ホテル
- 六月 十日 京都宗教者平和協議会出席 於 パレスサイドホテル
- 六月 十四日 明日の京都文化遺産プラットフォーム理事会出席 於 立命館朱雀キャンパス
- 六月 十四日 世界遺産「古都京都の文化財」ネットワーク会議出席 於 立命館朱雀キャンパス
- 六月 十四日 東山花灯路実行委員会出席 於 立命館朱雀キャンパス
- 六月 十四日 第二十六回国民文化祭京都府実行委員会第七回総会出席 於 東山区役所
- 六月 二十一日 社団法人京都市観光協会通常総会出席 於 ホテルルビノ京都堀川
- 六月 二十三日 平和茶会出席 於 ウェスティン都ホテル京都
- 六月 二十三日 平和茶会出席 於 慈照寺

- 六月 二十三日 京都府宗教連盟常任委員会出席 於 立正佼成会京都普門館
- 六月 二十六日 知床法要列席 於 知床
- \* 六月 二十八日 理事・評議員合同役員会開催 於 承天閣美術館
- 六月 二十九日 大阪府宗教連盟理事総会出席 於 金光教玉水教会記念館
- \* 七月 二日 第七回国家と宗教研究会開催 於 相国寺大書院
- 七月 十一日 京の七夕実行委員会・幹事会合同会議出席 於 京都平安ホテル
- \* 七月 二十日 全国巡回大墨蹟展オープニング 於 岡山市天満屋
- 七月 二十三日 春秋苑ヒュンマンカレッジ水観堂中西玄禮祝下講演 於 東京・信行寺春秋苑
- 七月 二十三日 第二十八回庭野平和賞贈呈式出席 於 立正佼成会京都普門館
- 七月 二十五日 福島県庁へ義援金贈呈 於 福島県庁
- 七月 二十六日 京都中央葬祭業組合定時総会出席 於 京都プライムホテル
- 七月 二十八日 参勤会議開催 於 南禅寺順正
- 七月 三十日 医療と仏教(宗教)シンポジウム 於 清水寺
- 八月 一日 西本願寺音舞台記者会見 於 毎日放送本社
- 八月 二日 全日本仏教会シンポジウム出席 於 秋葉原コンベンションホール
- 八月 六日 京の七夕開会式出席 於 二条城東大手門前
- \* 八月 十六日 たなばた願文お焚き上げ・盂蘭盆会採燈大護摩供法要 於 清水寺南苑
- 八月 二十七日 京都モデルフォレスト協会宮城泰年常務理事講演 於 京都府立植物園
- \* 八月 二十八日 宗教と政治検討委員会開催 於 京都全日空ホテル
- \* 八月 三十日 『京佛』夏季号会報発送 於 京都仏教会事務所
- 八月 三十日 京都府宗教連盟委員会・近畿宗教連盟常任理事会出席 於 立正佼成会京都普門館
- 八月 三十一日 宗教法人関係者南部地域人権問題研修会出席 於 京都府立総合社会福祉会館
- 九月 二日 伝統産業未来を担う人づくり推進事業選定委員会出席 於 祇園祭山鉾連合会
- 九月 二日 文化財を守り伝える京都府基金会議出席 於 京都府庁
- 九月 六日 J.R委員会出席 於 リーガロイヤルホテル京都
- 九月 六日 京都観光宣伝協議会出席 於 リーガロイヤルホテル京都
- 九月 七日 宗教法人関係者北部地域人権問題研修会出席 於 みやづ歴史の館中公民館
- 九月 八日 仏教を学ぶ米国の短期留学生 聖護院訪問 於 聖護院門跡
- 九月 十四日 京都市深草墓園秋季慰霊祭列席 於 深草墓園
- 九月 二十四日 京の美食委員会出席 於 京都ロイヤルホテル
- \* 九月 二十八日 秋季彼岸焼骨灰供養法要開催 於 永観堂禅林寺

- 十月 二日 法然上人八百人大遠忌法要列席 於 総本山知恩院
- \* 十月 七日 西本願寺音舞台開催 於 西本願寺
- 十月 十一日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員会出席 於 京都商工会議所
- 十月 十五日 観〇光ART EXPO 二〇二〇一オープニング出席 於 泉涌寺
- \* 十月 十七日 岡山市社会福祉協議会へ有馬理事長寄付金贈呈 於 岡山市
- 十月 十九日 近畿宗教連盟常任理事会出席 於 立正佼成会京都普門館
- 十月 二十二日 萬福寺開創三五〇年記念慶讃法要列席 於 萬福寺
- 十月 二十四日 医療と仏教(宗教)懇談会 於 ケイアソシエイツ
- 十月 二十九日 国民文化祭開会式出席 於 京都国際会館
- 十月 三十一日 椿山荘落慶法要列席 於 東京椿山荘
- 十月 三十一日 京の七夕幹事会出席 於 京都市役所
- 十一月 一日 古典の日推進フォーラム出席 於 京都国際会館
- 十一月 七日 宗教法人関係者人権問題研修会出席 於 京都商工会議所
- 十一月 八日 大阪府仏教徒大会出席 於 ホテル日航大阪
- 十一月 十五日 花灯路推進協議会幹事会出席 於 京都商工会議所
- 十一月 二十日 日田市植樹祭有馬頼底理事長出席 於 大分県日田市
- 十一月 二十一日 鹿苑寺開山忌列席 於 鹿苑寺
- 十一月 二十七日 近畿宗教連盟第六十三回兵庫大会出席 於 生田神社会館
- \* 十一月 二十七日 故清瀧智弘師十三回忌法要 於 清水寺
- 十二月 一日 全日本仏教会評議員会・参与会出席 於 東京グランドホテル
- 十二月 三日 明日の京都文化遺産プラットフォームシンポジウム出席 於 同志社大学明德館
- 十二月 四日 京都府緑陰講座 於 立命館大学朱雀キャンパス
- \* 十二月 五日 成道会・永年勤続表彰開催 於 萬福寺
- \* 十二月 五日 参勤僧会議開催 於 泉涌寺
- 十二月 七日 明日の京都文化遺産プラットフォーム第一回フォーラム出席 於 南禅寺順正
- 十二月 九日 京都・嵐山花灯路開会式出席 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 十二月 十二日 京都市観光協合理事会出席 於 嵐山美空ひばり座
- 十二月 十四日 京都映画文化会会議出席 於 京都国際ホテル
- \* 十二月 十八日 第八回国家と宗教研究会開催 於 承天閣美術館

諸 会 議

◆ 第七回国家と宗教研究会

〔七月二日〕

国家と宗教研究会を承天閣美術館にて開催した。第七回は平野武氏（龍谷大学教授）が「宗教団体に関する憲法原則」と題して研究発表を行った。出席の各界学者や宗教者らから熱心な質疑応答が続いた。



◆ 京の七夕実行委員会・幹事会合同会議

〔七月十一日〕

京の七夕実行委員会幹事会が京都平安ホテルにて開催され、「平成二十三年度事業計画」について審議された。当会からは、宮城泰年常務理事、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 京都中央葬祭業協同組合定時総会

〔七月二十六日〕

京都中央葬祭業協同組合による定時総会が、京都ブライトンホテルにて開催された。

「現在の葬祭業界事情」と題し、碑文谷創氏（専門誌S O U G I 編集長）の記念講演が行われた。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 参勤僧会議

〔七月二十八日〕

現在参勤従事各宗派僧侶も充実し、斎場の勤行に日々精励いただいている。この日は南禅寺順正にて、お盆期間の参勤体制が話し合わせ、その後懇親会が行われた。

◆ 医療と仏教(宗教)シンポジウム

〔七月三十日〕

平成二十三年度第一回医療と仏教(宗教)を考える研究会を清水寺大講堂洗心洞にて開催した。テーマを「知足と経済学」と題し、西村周三氏



◆ 宗教と政治検討委員会

〔八月二十八日〕

宗教と政治検討委員会が全日空ホテルにて開催され、「文化庁京都府による不活動法人実態調査」「国家と宗教研究会次回発題者及び内容」「宗教研究所(仮)設立構想」について報告及び意見交換が行われた。

● 仏教会報告 ●

◆ 全日本仏教会シンポジウム

〔八月二日〕

全日本仏教会は、葬儀をめぐる問題を考えるシンポジウムを秋葉原コンベンションホールにて開催した。

「消費者アンケートから見えるお弔い」佐伯美智子氏(財)日本消費者協会教育啓発部教育課長、「葬儀が変わる」広原章隆氏(イオンリテール(株))イオンライフ事業部部長、「仏教は何のために、誰のためにある教えか?」林数馬師(株式会社おぼろさんどつとこむ代表取締役)、「過去10年間の相談内容の推移」互井観章師(仏教情報センター事務局長)が講演した。続いて、コーディネーターに戸松義晴師(財団法人全日本仏教会事務総長)が加わり、参加者からの質問、意見を集約し、シンポジウムが行われた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。



◆ 京都府宗教連盟委員会・近畿宗教連盟常任理事会

〔八月三十日〕

京都府宗教連盟委員会(総会)が立正校成会京都普門館にて開催された。東日本大震災被災者への黙祷後、議案事項として、「平成二十二年事業報告」「平成二十二年会計決算報告ならびに監査報告」「平成二十三年事業計画」「平成二十三年度予算案」「平成二十三年度役員」が審議され承認された。

その後、「東日本大震災をうけて宗教者はいま…」と題し、野田正彰氏(関西学院大学教授)による記念講演会が開催された。





### ● 仏教会報告 ●

続いて、近畿宗教連盟常任理事会が開催された。議案事項として「平成二十二年度事業報告」「平成二十二年度会計決算報告・会計監査報告」「平成二十三年度事業計画案・予算案」「役員の選任」「第六十三回兵庫総会開催要項」について審議された。

当会からは、荒木元悦常務理事、吉田清順評議員、長澤香静事務局長らが出席した。

#### ◆ 宗教学者関係者南部地域・北部地域人権問題研修会

〔八月三十一日・九月七日〕

京都府と京都府宗教連盟共催による平成二十三年度宗教学者関係者人権問題研修会が八月三十一日、京都府立総合社会福祉会館（南部会場）、九月七日にはみやび歴史の館中央公民館（北部地域）にて開催された。



「悲哀と宗教」と題し、関西学院大学教授野田正彰氏が講演を行い、宗教関係者や檀信徒ら多数の参加者は熱心に聞き入った。

引き続き、高齢者の尊厳を守り、誰もが最後まで自分らしく生きる事が出来る社会を実現するにはどうしたらよいか考える啓発

映画「夢のつづき」が上映された。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長、中尾香代事務局長らが出席した。

#### ◆ 「京の伝統産業」未来を担う人づくり推進事業選定委員会

〔九月二日〕

京都府は、「京の伝統産業」未来を担う人づくり推進事業選定委員会を（財）祇園祭山鉦連合会にて開催した。

神社庁・祇園祭山鉦連合会・京都仏教会より挙げられた修理・修復の対象物件の中から今年度取り組む事業の検討及び決定が成された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

#### ◆ 文化財を守り伝える京都府基金会議

〔九月二日〕

京都府は、文化財を守り伝える京都府基金等事業費補助金調整会議を京都府庁にて開催した。

「平成二十二年度の取り組みについて」「平成二十三年度文化財を守り伝える京都府基金等事業費補助金案について」「歴史的建造物などの有形文化財の保存・修理事業に二十箇所、地震・火災から有形文化財を守る事業に八社寺が候補として挙げられた。今後は、文化財所有者等と細部調整が行われる。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

#### ◆ JR委員会

〔九月六日〕

（社）京都市観光協会によるJR委員会がリーガロイヤルホテルにて開催された。

「平成二十二年度事業報告並びに決算報告」「平成二十三年度事業計画案並びに予算案」について協議され、承認された。

当会からは、北川隆法理事が出席した。

#### ◆ 京都観光宣伝協議会総会

〔九月六日〕

（社）京都市観光協会・JR委員会および京都観光宣伝協議会の総会がリーガロイヤルホテルにて開催された。

平成二十二年度事業報告・収支報告並びに監査報告について、平成二十三年度事業計画案・収支予算案について審議された。

当会からは、北川隆法理事が出席した。

#### ◆ 京都文化交流コンベンションビューロー評議委員会

〔十月十一日〕

公益財団法人移行後の京都文化交流コンベンションビューロー第一回評議委員会が、京都商工会議所にて開催された。

議案事項として、「会長・副会長に関する件」「平成二十三年度事業計画及び収支予算の準用に関する件」「評議員会規則の制定

#### ◆ 近畿宗教連盟常任理事会

〔十月十九日〕

近畿の各宗教団体で組織されている近畿宗教連盟により平成二十三年度第二回常任理事会が立正佼成会京都普門館にて開催された。

東日本大震災犠牲者への黙祷後、平成二十三年度第六十三回兵庫総会開催要項と式次第について報告され、十一月二十一日に生田神社会館にて開催されることが決定した。

続いて、宣言文について、兵庫県宗教連盟からの原案「大自 然災害時代に臨む」を

基に検討され、一部修正の上承認された。

当会からは、荒木元悦常務理事、北川隆法理事、長澤香静事務局長らが出席した。



### ● 仏教会報告 ●

● 仏教会報告 ●

◆ 医療と仏教(宗教)懇談会

〔十月二十四日〕

医療と仏教懇談会を(株)ケイアソシエイツにて開催した。大学及び医療の分野からは、塩田浩平京都大学副学長、山岡義生日本パプテスト連盟医療団理事長、渡辺剛パプテスト在宅ホスピス健和ケアクリニック院長、泰井俊造薬師山病院院長、浜本京子パプテスト病院チャプレン、岡下晶子薬師山病院音楽療法士らが出席し、医療現場での実際の対応と宗教の役割について熱心に意見が交わされた。

当会からは、北園文英理事、平野雅章監事、清水寺森清顕録事、長澤香静事務局長らが出席した。

◆ 京の七夕実行委員会幹事会

〔十月三十一日〕

京の七夕委員会幹事会が京都市役所にて開催された。議題として、「京の七夕事業に関して」「京の七夕絵はがき短冊売上等の寄付」「来年度の開催日程」について意見交換が行われた。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 宗教法人関係者人権問題研修会

〔十一月七日〕

京都府、京都府宗教連盟と同和問題に取り組む京都府宗教者連

絡会議(京都同宗連)共催による平成二十三年度宗教法人関係者人権問題研修会が京都商工会議所にて開催された。

「人の世に熱と光を」と題し清原隆宣師(西光寺副住職、(財)水平社博物館評議員)による講演、また、荻須慈海師(臨濟宗妙心寺派人権擁護推進本部事務局員)による「臨濟宗妙心寺派の取組」活動報告が行われた。

続いて、啓発映画「めばえの朝(あした)」も上映された。当会からは、荒木元悦常務理事、が出席した。

◆ 大阪府仏教徒大会

〔十一月八日〕

大阪府仏教会が第四十六回大阪仏教徒大会をホテル日航大阪にて開催した。

東日本大震災物故者追悼ならびに復興大祈願法要が営まれた後、東日本大震災現地状況、ボランティア活動報告が行われた。

続いて、「医学から見たいのち」と題し平野俊夫氏(大阪大学総長)による記念講演が行われた。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。



● 仏教会報告 ●

◆ 花灯路推進協議会幹事会

〔十一月十五日〕

第二回幹事会が京都商工会議所にて開催された。「主要業務発注状況」「運営警備業務」「嵐山花灯路に係わる広報・宣伝活動状況」「照明器具等貸し出し状況」について報告された。続いて、「京都・嵐山花灯路二〇一一事業計画(案)」「嵐山花灯路全体指揮・責任体制及び通信連絡体制(案)」「嵐山花灯路オープニングイベント(案)」「京都・東山花灯路二〇一二事業計画(案)」について協議された。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

◆ 第六十三回近畿宗教連盟兵庫総会

〔十一月二十一日〕

昭和二十三年の創立以来、近畿の各宗教団体で組織されている近畿宗教連盟は、第六十三回近畿宗教連盟兵庫大会を生田神社会館にて開催した。

総会では、東日本大震災の被災者の方々に対し、哀悼の意を表して黙祷を捧げた後、議案事項として、「平成二十二年事業報告・通常会計決算」「平成二十三年度事業計



画並びに予算案」が審議され承認された。また、二十三年度本部役員について、副理事長二名の交替が報告された。終了後、「東日本大震災の被災地を訪ねて」と題し、野田正彰氏(関西学院大学教授)による基調講演。また、コーデイナー(関西学院大学教授)による基調講演。また、野田正彰氏(前兵庫県知事)、野田正彰氏による対談も行われた。

その後、高野山真言宗自治布教団、兵庫県新道青年会、天理教兵庫教区が活動報告を行った。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長らが出席した。

◆ 全日本仏教会評議員会・参与会

〔十二月一日〕

第二回評議員会・参与会が東京グランドホテルにて開催された。議案事項として、「現行寄附行為上の理事及び監事の変更について承認を求める件」「公益財団法人全日本仏教会の最初の理事及び監事就任予定者の変更と、それに伴う定款変更について承認を求める件」「原子力発電所の事故の対応について承認を求める件」続いて、協議事項として「平成二十四年度事業計画」「平成二十四年度予算」「暴力団排除例全国施行に伴う対





### ● 仏教会報告 ●

#### ◆ 参勤僧会議

〔十二月五日〕

現在、参勤従事の各宗派僧侶も充実し、斎場の勤行に日々精励いただいている。この日は、この一年間の反省と参勤体制のあり方について及び年末年始体制について話し合いが行われた。その後忘年会が行われ懇親を深めた。

#### ◆ 京都市観光協会理事会

〔十二月十二日〕

（社）京都市観光協会は、理事会を京都国際ホテルにて開催した。議案事項として、「事務所の移転について」「公益社団法人への移行申請状況について」「京の夏の旅事業報告・京の冬の旅事業展開」について審議された。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

#### ◆ 京都映画文化会議

〔十二月十四日〕

京都市は、京都映画文化会議を京都ロイヤルホテルにて開催し

た。「東北大地震での各宗派の活動状況の報告」等について審議された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

た。平成二十二年十一月に「京都映画文化会議」が設置され、今回で三回目となる。

門川大作京都市市長の挨拶の後、京都市の取組や意見交換が行われた。

当会からは、北川隆法理事が出席した。

#### ◆ 第八回国家と宗教研究会

〔十二月十八日〕

国家と宗教研究会を承天閣美術館にて開催した。

第八回は宗教法人設立の認証の状況と官による裁量権について、澤村健太郎氏（熊本県耶智輪観音真立宗真心院）吉田清順氏（京都仏教会評議員・教泉寺）岩崎旬治氏（天理教教務部宗教法人課長）千葉宣義氏（日本キリスト教団京滋支部）がそれぞれ発表を行った。官による裁量権について実態を憲法に照らし研究する試みは、宗教界からははじめてのことであり、意義あることと学者宗教者等からは今後も考究を続けるべきとの意見が相いっ



田中滋龍谷大学教授の司会のもと出席の各界学者や宗教者らから活発な質疑応答が続いた。

## 行 事

#### ◆ 全国巡回大墨蹟展・岡山市

〔七月二十日〕

第二十回目を迎える全国巡回大墨蹟展を岡山市天満屋にて開催した。

福祉と文化交流を趣旨として毎年開催するこの展覧会は回を重ねるごとに内容が充実し地元との交流が益々深まっている。

今回も岡山市、岡山市社会福祉協議会、山陽新聞社、RSK山陽放送、OHK岡山放送、RNC西日本放送、KS B瀬戸内海放送、TSCテレビせとうちなど多数の協力・後援をいただいた。

オープニング会場となった天満屋は来館者であふれ、有馬頼底理事長、宮城泰年常務理事、地元社会福祉協議会代表、天満屋社長らによるテープカットを行った。

続いて、有馬頼底理事長による特別講演会も行われた。

七月二十六日までの期間中は大勢の方々会場を訪れ、大墨蹟展は無事終了した。



#### ◆ 春秋ヒューマンカレッジ 永観堂中西玄禮猥下講演

〔七月二十三日〕

春秋ヒューマンカレッジが、春秋苑・白蓮華堂（神奈川県・信行寺）にて講演会を開催した。各界で活躍中の著名な方々を講師に迎える文化講演会で年間五〜六回行われている。

今回は、約二百名の聴講者の中「凛々と生きる」と題し、永観堂の中西玄禮猥下が講演。

「平易な言葉で話してください、解りやすかった」「今後の人生に役立てる」「また聴きたい」等感想が寄せられた。



#### ◆ 第二十八回庭野平和賞贈呈式

〔七月二十三日〕

庭野平和財団は庭野平和賞贈呈式を立正佼成会京都普門館にて開催された。

約百五十名の聴講者の中、第二十八回目の受賞者はタイの在家仏教徒で、INEB（仏教者国際連帯会議）の共同創設者である

### ● 仏教会報告 ●

#### ◆ 京都市観光協会理事会

〔十二月十二日〕

（社）京都市観光協会は、理事会を京都国際ホテルにて開催した。議案事項として、「事務所の移転について」「公益社団法人への移行申請状況について」「京の夏の旅事業報告・京の冬の旅事業展開」について審議された。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

#### ◆ 京都映画文化会議

〔十二月十四日〕

京都市は、京都映画文化会議を京都ロイヤルホテルにて開催し

た。「東北大地震での各宗派の活動状況の報告」等について審議された。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

### ● 仏教会報告 ●

テーマに京都の新たな夏の風物詩「京の七夕」が十五日まで十日間、開催された。

二回目を迎えた今夏も、堀川・鴨川の川辺を幻想的な光がほのかに灯した。二条城前から元誓願寺通りまでライトアップし、参加者がLED（発光ダイオード）を埋め込んだ光るボールを堀川に放流し「光の天の川」を演出。四条大橋から御池大橋にかけての鴨川沿いでは伝統産業品とLEDを組み合わせた大規模な光の演出や友禅流しの実演等が実施された。竹と光のアート作品、演奏会、京友禅工房の体験、今年も、東日本大震災からの復興への願いもテーマに加え、仙台七夕まつりとの連携など京都から東北に思いを届けた。十日間で昨年を超える七十八万の来場者を迎え盛況となった。



期間中、清水寺をはじめ高台寺・圓徳院・平等院・六道珍皇寺・清明神社・貴船神社・石清水八幡宮の各寺社において特別拝観等行われた。

#### ◆ たなばた願文お焚き上げ・盂蘭盆会採燈大護摩供法要

〔八月十六日〕

### ● 仏教会報告 ●

スラック・シワラック氏。この後、スラック氏による記念講演、パネルディスカッション等行われ、東日本大震災後の社会構築のあり方、宗教者の役割などについても意見が交わされた。当会からは、荒木元悦常務理事、吉田清順評議員が出席した。

#### ◆ 福島県庁へ義援金贈呈

〔七月二十五日〕

東日本大震災後、京都府内のご寺院各位から多大なるご支援を頂き、大震災と原発による多大な被害をうけ、復興に時間がかかるとみられる福島県に直接お届けしたく思い、有馬頼底理事長をはじめ宮城泰年常務理事、森泰長理事が福島県庁を訪れました。



皆様からの寄附金二〇二〇万三三四五円を福島県佐藤雄平知事にお渡し、翌日は、福島県いわき市沿岸部被災地各所において法要を営み午後、いわき市湯元を訪れ、真言宗智山派勝行院にて被災者追悼法要を智山派有志寺院とともに厳修致しました。

#### ◆ 西本願寺音舞台記者会見

〔八月一日〕

本年度第二十四回を数える京都部教会・毎日放送主催の「音舞台」記者会見が毎日放送本社にて行われた。開催は十月七日に西本願寺にて。本年は浄土真宗の宗祖親鸞聖人の七五〇回遠忌にあたり、本願寺阿弥陀堂前に特設ステージを設ける。

ピアノソロや室内楽、オーケストラなど演奏活動も国内外問わず精神的に行っている、久石讓氏、阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてオープンした兵庫県立芸術文化センターの専属オーケストラの兵庫芸術文化センター管弦楽団、岩手県大船渡市三陸町越喜来の地域住民が、大正時代に絶えた三陸町の「浦浜鹿踊」を目指し二十年の修行の後二〇〇九年に金津流梁川獅子躍から晴れて分家し、民俗芸能の保存・継承に取り組んでいる金津流梁川獅子躍が出演する予定。なお、テレビ放映はMBS・TBS系全国ネットにて十一月三日と発表された。

挨拶に立った有馬頼底理事長は、「奇しくも宗祖親鸞聖人七五〇年遠忌の年にあたります。数々の法難にあいながらも広く民衆に仏の教えを開かれた聖人の姿に感銘を覚えない人はいないでしょう。この記念すべき西本願寺音舞台は、必ずや皆さまの心に鮮やかにいつまでも残ることでしょう。」と語った。

#### ◆ 京の七夕開会式

〔八月六日〕

「一年に一度願い事をする」という七夕にちなんで「願い」を

京都府神社庁と京都仏教会による「たなばた願文お焚き上げ」が清水寺南苑にて執り行われた。

聖護院門跡宮城泰年門主を導師に吉田神社三木善則宮司を斎王に神職と修験者が出仕し、全国から寄せられた短冊（たなばた願文）のうち約五千枚が盛大に焚き上げられ、今日の夏空にそれぞれの思いが託された。

続いて、本年度第二十三回を迎えた恒例の当会主催盂蘭盆会採燈大護摩供法要が営まれた。

本年も福祉施設で作成された護摩木約二万本に皆様の願いが書かれ、お盆送り火のこの日に供養された。

願いを書いた護摩木を自らの手で火中に投じた参拝者らは、それぞれの思いを込めて熱心に手を合わせていた。その列は次から次へと切れることなくいつまでも続いた。





● 仏教会報告 ●

● 仏教会報告 ●

◆ 京都モデルフォレスト協会  
宮城泰年常務理事講演

〔八月二十七日〕

古来からの森林と人間とのかわりを宗教者や学識者が語り合うシンポジウム「森を語る以森伝心」が京都府立植物園で開催された。

二〇一一年を国連が「国際森林年」と定めることから京都府、京都モデルフォレスト協会が企画した。

第一部、「修験と森」と題し本山修験宗管長・聖護院門跡門主宮城泰年氏



による基調講演。第二部は、「森を語る」以森伝心」をテーマに宮城泰年氏、国民森林会議会長・名古屋大学名誉教授只野良也氏、京都府立大学大学院教授高原光氏による鼎談。

クスノキ並木の下に会場を設け、約八十人が聞き入った。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 仏教を学ぶ米国の短期留学生聖護院訪問

〔九月八日〕

当会からは、荒木元悦常務理事、吉田清順評議員、長澤香静事務局長が列席した。

◆ 京の美食委員会

〔九月二十四日〕

京の食の魅力テーマにしたフォーラム「京のご馳走これがほんまもん」が京都ロイヤルホテルにて開催された。

中華料理の魏禮之氏、日本料理の高橋英一氏、イタリア料理の福村賢一氏の料理人が順に料理へのこだわりなどを紹介。和洋中三種のだし汁も振る舞われ、料理を出す側と食べる側双方の視点から食と文化のかわりを考えた。

フォーラムは京都の文化人や経済人で結成した「京の美食委員会」(代表堀場雅夫氏)が開催。市民ら二百人が参加した。当会からは、長澤香静事務局長が出席した。

◆ 秋季彼岸焼骨灰供養法要

〔九月二十八日〕

秋彼岸にあたり浄土宗西山禅林寺派総本山・永観堂禅林寺本堂において京都仏教会、京都中央葬祭業協同組合の共催による恒例の秋彼岸供



昨年引き続き、当会より支援金の助成を受け京都で仏教学を研修するためにやってきた米国アンティオック大学の学生十名が聖護院門跡を訪れ、宮城泰年常務理事を表敬訪問をした。「毎年自分たちを温かく迎えてくださることに感謝しています。どうか最後まで見守ってください」と述べた。宮城泰年常務理事は、「これからの3カ月、つづがなく仏教を学ぶことに打ち込めるよう念じております。」と温かく激励した。



◆ 京都市深草墓園秋季慰霊祭

〔九月十四日〕

今回は、臨済宗大本山南禅寺の御奉仕のもと伏見深草墓園にて秋季慰霊式典が厳かに執り行われた。

門川大作京都市長、京都府宗教連盟役員らが出席し、代表焼香の後、約千人の遺族が次々と焼香し故人の冥福を祈った。

なお、京都市深草墓園は京都市のお墓として昭和三十三年七月に開設され、永年納骨と短期納骨の取り扱いとして市民の利用に供しており、現在では約九千体の御霊が宗教宗派の区別なく合祀されている。今回で一〇七回を数える。

養法要が営まれた。

浄土宗西山禅林寺派久我儼昭宗務総長の法話の後、浄土宗西山禅林寺派管長中西玄禮下導師のもと山内ご出仕により彼岸供養法要が厳修された。

秋のやさしい日差しの中約千五百人も参加者を迎え、御影堂に溢れるほどの列は庭まで長く続き、この半年間にお亡くなりになられた故人をしのぶ焼香の列は長く続いた。



◆ 法然上人八百年大遠忌法要

〔十月二日〕

浄土宗を開いた法然上人をしのぶ五十年に一度の大法要が総本山知恩院にて厳修された。

東日本大震災発生を受けて半年遅らせての開催。檀信徒らは手をあわして念仏を唱え宗祖の遺徳をたたえた。知恩院境内には、全国から約二千五百人が訪れた。

当会からは、有馬頼底理事長、長澤香静事務局長が列席した。

◆ 西本願寺音舞台

〔十月七日〕

### ● 仏教会報告 ●

#### ◆ 萬福寺開創三五〇年記念慶讃法要

〔十月二十二日〕

隠元隆琦禪師が京都の宇治に黄檗山萬福寺を開創して三五〇年を迎え、慶讃大法要が黄檗宗大本山萬福寺にて厳修された。

秋らしい好天の中、岡田亘令管長御導師のもと松隠堂（隠元禪師晩年の隠寮）の修復落慶法要が営まれ、続いて、大雄宝殿にて開創三五〇年慶讃法要が厳修された。黄檗独特の節回しの梵唄が続く中、各派管長や檀信徒約八〇〇人の焼香の列が続いた。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長らが出席した。

有馬頼底理事長は、昨年七月に岡山県天満屋にて開催した大墨蹟展の収益の一部の百万円を岡山市の福祉に寄付するため岡山市役所を訪問し、岡山市社会福祉協議会会長内田通子氏に義捐金を手渡した。

〔十月十七日〕



### ● 仏教会報告 ●

二十四回を迎える「音舞台」は当会及び毎日放送主催、大和証券グループ、LIXILの協賛を頂きシリーズ化された。今では古都における文化的価値のある催しとして広く知られるところとなった。

本年は、浄土真宗の宗祖親鸞聖人の七五〇回遠忌にあたり、それを記念して西本願寺で開催され、本願寺阿弥陀堂前に特設ステージを設けた。

数々の日本映画音楽を手掛け、またピアノソロや室内楽、オーケストラなど演奏活動も国内外問わず精力的に行っている久石譲氏を指揮者に、阪神・淡路大震災からの復興のシンボルとしてオープンした兵庫県立芸術文化センターの専属オーケストラの兵庫芸術文化センター管弦楽団が演奏。若手県大船渡市三陸町越喜来の地域住民による、民俗芸能の保存・継承に取り組んでいる金津流浦浜獅子躍。アイルランドのヴァイオリニスト、フィンヌーラ・シェリーとノルウェーの作曲家兼ピアニストのラルフ・ラヴランドによるユニット。日本では癒し系音楽として知られている。舞台芸術家伊達谷門取によって創設された和太鼓グループ、打打団天鼓は大小四十数台の和太鼓、津軽三味線、篠笛などを駆使したユニークさとドラマティックな演出で注目されている。総部員数百二十名で構成する京都でも有数の大合唱団、龍谷大学混成合唱団ラポール。

美しい月に照らされ、また鮮やかにライトアップされた阿弥陀堂を背景に美しい音色が響き渡り「東洋と西洋の出会い」が美しく練り広げられ幻想的な空間に満席の観客らは酔いしれた。

#### ◆ 観〇光 ART EXPO二〇一〇一オープニング

〔十月十五日〕

観〇光 ART EXPO二〇一〇一が二条城、泉涌寺、清水寺にて開催された。東日本大震災の復興に向けた未来への「光」をテーマに約五〇〇点の作品が展示された。

開催に先立ち、泉涌寺にてオープニングセレモニーが開催され、古澤巖氏による奉納演奏（ヴァイオリン演奏）が行われた。出席者は展示されている彫刻や絵画、陶芸、写真等の多くの作品を熱心に見入っていた。

三回目を迎えるこの行事は当会も後援し、元來寺院が行ってきた芸術家を育み発表の場を与える役割を新たに構築しようとするものである。

当会からは、荒木元悦常務理事、長澤香静事務局長らが出席した。



#### ◆ 岡山市社会福祉協議会へ有馬頼底理事長寄附金贈呈

#### ◆ 国民文化祭開会式

〔十月二十九日〕

国民文化祭・京都二〇一〇一の開会式が、国立京都国際会館にて開催された。

一九八六年から都道府県持ち回りで毎年開催されおり、今回は「こころを整える」文化の「発心」をテーマに掲げ、期間中七十の文化イベントが行われ、最終日には、能楽師の片山九郎右衛門氏がプロデュースした舞台「春の習ひ」で、能楽師と府内の小中高生が共演し天狗が成長とともに人々と絆を紡ぐ物語を表現し九日間わたる文化の祭典を締めくくった。当会からは、荒木元悦常務理事が出席した。

#### ◆ 古典の日推進フォーラム

〔十一月一日〕

古典の日推進委員会は、古典の日推進フォーラム二〇一〇一を国立京都国際会館にて開催した。

第一部は、古典の日イメージキャラクターでもある玉井葉採氏によるヴァイオリン演奏、続いて、「鎮魂あこがれの東北一丈日記、源氏物語、そして古今和歌集」と題し小林一彦氏（京都産業大学教授）の講演が行われた。

第二部は福島昭次氏（園田学園女子大学教授）をコーディネーターに、鶴橋康夫氏（映画監督）、東儀秀樹氏（雅楽師）、山本淳子氏（京都学園大学教授）による「源氏物語の音世界」についてのパネルセッションが行われ、その後、東儀秀樹氏による雅楽演奏が行われた。



### ● 仏教会報告 ●

#### ◆ 日田市植樹祭

〔十一月二十日〕

市民参加の森づくり大会が、昨年市政七十周年記念事業としてシンポジウム「森と文化を未来につなぐ」大会が行われた大分県日田市にて開催された。

市民約二百人が、将来文化財の材料として利用できる樹種、ケヤキ・ヤマザクラ九百本を植樹し、また、ヒノキの間伐枝打ち体験を行った。

また、当会有馬頼底理事長の書「遠山無限碧層々」が文化財の森記念碑として建立され除幕式が行われた。

当会からは、有馬頼底理事長、長澤香静事務局長らが出席した。



#### ◆ 故清滝智弘師十三回忌法要

〔十一月二十七日〕

この日、故清滝智弘師の十三回忌法要が理事長有馬頼底、下御導師のもと京都仏教会役員出仕により清水寺大講堂円通殿にて厳修された。

平成十一年十一月に遷化された故清滝智弘師は京都仏教会常務理事として長年に渡り京都仏教会に貢献され、当会発展のために多大なる尽力をされた。

同志社関係者も多数ご参列され、故人の業績と遺徳を偲んだ。



### ● 仏教会報告 ●

#### ◆ 京都府緑陰講座

〔十一月四日〕

京都府は、「文化財を守り伝える京都府基金」寄付者の方の文化体験として緑陰講座を開催している。今年度一回目の講師は、黄檗宗大本山萬福寺岡田巨令管長。萬福寺の略史を交えた講話に参加者は、大変満足された。その後、境内の文化財建造物の特別拝観をした。

（和紙作家）の講演、また、「無形文化遺産の保護と持続的発展に向けて」と題し、後藤和子氏（埼玉大学教授）、吉田孝次郎氏（祇園祭山鉾連合会）、畑正高氏（香老舗松栄堂主人）、とモデレーターに河島伸子氏（同志社大学教授）を迎えパネルディスカッションが行われた。

当会からは、長澤香静事務局長が出席した。



#### ◆ 成道会・永年勤続表彰

〔十一月五日〕

お釈迦さまのお悟りになられた遺徳を偲び、当会主催による成

#### ◆ シンポジウム 「無形文化遺産の保護と持続的発展にむけて」

〔十二月三日〕

明日の京都文化遺産プラットフォームは、京都に根付く伝統工芸や祭事など無形文化遺産の継承について考えるシンポジウムが同志社大学にて開催された。

「伝統工芸と革新技術の進化する和紙」と題し堀木エリ子氏

道会が総本山泉涌寺にて厳修された。

泉涌寺上村貞郎長老御導師、御一山僧侶の出仕、当会役員随喜のもと舍利殿にて厳かに法要が営まれた。

続いて永年勤続五十年任職表彰の知事表彰、三十年会長表彰が行われ、京都府山内修一副知事と有馬頼底理事長よりそれぞれに賞状と記念品が授与された。

尚、表彰を受けられた方々は次のとおり。



#### ● 永年勤続任職知事表彰者（五十年）

- 大竹辨学師 蓮台寺 西山浄土宗
- 嶋本弘修師 稱讚寺 浄土宗西山禅林寺派
- 牟田良久師 清林寺 臨濟宗南禅寺派

#### ● 永年勤続任職会長表彰者（三十年）

- 高木英準師 佛陀寺 西山浄土宗
- 沢田教英師 安養寺 西山浄土宗
- 石垣源雄師 無量院 西山浄土宗
- 柴田珠光師 常楽院 真言宗御室派
- 生石和宏師 遍照寺 真言宗御室派
- 阿刀鶴英師 普門院 真言宗御室派
- 山崎淳道師 圓満院 真言宗御室派
- 小林玉昌師 地藏寺 真言宗御室派
- 阪口慈航師 無礙光院 臨濟宗相国寺派
- 木原妙泰師 栄宝寺 高野山真言宗
- 一常恵洲師 龍興院 臨濟宗南禅寺派

● 仏教会報告 ●

表彰式の後には本坊客殿にて祝宴が営まれ、表彰者を代表して五十年表彰の嶋本弘修師から「一日一日を重ね今日を迎え幸せに感じます。今後も精進してまいります」と謝辞が述べられた。

◆ 明日の京都文化遺産プラットフォーラム 第一回フォーラム

〔十二月七日〕

明日の京都文化遺産プラットフォーラム第一回フォーラムが立命館大学朱雀キャンパスにて開催された。

フォーラムは京舞井上流五世家元の井上八千代氏が「老松」を舞って開幕し、「二〇一二年十一月月上旬に世界遺産条約発足四十年、一九九二年の日本批から二十周年の記念イベントが京都で開催されると」と松浦晃一郎会長が報告した。

続いて、近藤誠一氏（文化庁長官）、有馬頼底氏（京都仏教会理事長）、土岐憲三氏（立命館大学教授）が文化遺産の保護と地震・火災への対応について鼎談で意見を交わした。



原発事故により福島県内の菩提寺と連絡がとれない方々の電話取次開始

全日本仏教会では、原発事故によって避難を余儀なくされた各ご寺院と、地域住民の方々との連絡取次を12月12日～16日に行いました。

取次期間中は、加盟団体青年僧を中心としたボランティアスタッフにお手伝いをいただき、様々な問い合わせについて、対応いたしました。また、期間終了後も引き続き電話取次を行っております。お問い合わせは（03-3437-9275）までご連絡ください。



ボランティアスタッフによる電話取次が行われた

なお、本取り組みは、12月1日に記者会見を開催し、TV、ラジオ、新聞各紙、インターネット等で広報されました。

「原子力発電によらない生き方を求めて」宣言文をプレスリリース  
全日本仏教会では、「いのち」を脅かす可能性をもつ原子力発電に依らない持続可能なエネルギーによる社会の実現を目指すべく宣言文をプレスリリース致しました。

宣言文 原子力発電によらない生き方を求めて

東京電力福島第一原子力発電所事故による放射性物質の拡散により、多くの人々が住み慣れた故郷を追われ、避難生活を強いられています。避難されている人々はやり場のない怒りと見通しのつかない不安の中、苦悩の日々を過ごされています。また、乳幼児や児童をもつ多くのご家族が子どもたちへの放射線による健康被害を心配し、「いのち」に対する大きな不安の中、生活を送っています。広範囲に拡散した放射性物質が、日本だけでなく地球規模で自然環境、生態系に影響を与え、人間だけでなく様々な「いのち」を脅かす可能性は否めません。日本は原子爆弾による世界で唯一の被爆国であります。多くの人々の「いのち」が奪われ、また、一命をとりとめられた人々は現在もお放射線による被曝で苦しんでいます。同じ過ちを人類が再び繰り返さないために、私たち日本人はその悲惨さ、苦しみをとおして「いのち」の尊さを世界の人々に伝え続けています。

全日本仏教会は仏教精神にもとづき、一人ひとりの「いのち」が尊重される社会を築くため、世界平和の実現に取り組んでまいりました。その一方で私たちはもつと快適に、もつと便利にと欲望を拡大してきました。その利便性の追求の陰には、原子力発電所立地の人々が事故による「いのち」の不安に脅かされながら日々生活を送り、さらには負の遺産となる処理不可能な放射性廃棄物を生み出し、未来に問題を残しているという現実があります。だからこそ、私たちはこのような原発事故による「いのち」と平和な生活が脅かされるような事態をまねいたことを深く反省しなければなりません。

私たち全日本仏教会は「いのち」を脅かす原子力発電への依存を減らし、原子力発電に依らない持続可能なエネルギーによる社会の実現を目指します。誰かの犠牲の上に成り立つ豊かさを願うのではなく、個人の幸福が人類の福祉と調和する道を選ばなければなりません。

そして、私たちはこの問題に一人ひとりが自分の問題として向き合い、自身の生活のあり方を見直す中で、過剰な物質的欲望から脱し、足りることを知り、自然の前で謙虚である生活の実現にむけて最善を尽くし、一人ひとりの「いのち」が守られる社会を築くことを宣言いたします。

二〇一一年（平成二十三年）十二月一日

財団法人 全日本仏教会

◆ 京都・嵐山花灯路開会式

〔十二月九日〕

この日から十二月十八日までの十日間、嵯峨・嵐山界隈で「京都・嵐山花灯路」が開催された。

この「嵐山花灯路」は京都の活性化と観光振興に寄与するため二十一世紀の新たな風物詩としての「京都・花灯路」とと、京都府、京都市、京都商工会議所、京都文化交流コンベンションビューロー、京都市観光協会、京都仏教会などが企画して京都花灯路推進協議会を結成、すでに定評となった「東山花灯路」に続く事業で今年で七年目。

嵯峨・嵐山地域の自然、水辺、竹林や歴史的な文化遺産、景観などをいかし、日本情緒豊かな陰影のある約二千五百基の露地行灯の「灯り」とポリリウム感のあるいけばな作品の「花」で、総延長約五キロの「思わず歩きたくなる路」を演出。

期間中各種催しが開催されまた、周辺社寺においても夜の特別拝観を行った。

午後五時から午後八時三十分の間点灯され、期間中一二七万九千人の観光客らが初冬の夕暮れ散策を楽しんだ。



財団法人 全日本仏教会  
WFB(世界仏教徒連盟)日本センター

〒105-0011  
東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2F  
電話 03-3437-9275 FAX 03-3437-3260  
http://www.jbf.ne.jp/  
E-mail info@jbf.ne.jp



永年の信用・まごころのご奉仕

葬祭センター

# 公益社

本社・京都市中京区烏丸通三条下ル ☎075(221)4000  
フリーダイヤル ☎0120-00-4200  
http://www.koekisha-kyoto.com

葬儀式場

北プライトホール (堀川紫明) 京都市北区紫明通堀川東入 ☎075(414)0420  
中央プライトホール (五条大和路) 京都市東山区五条通大和路 ☎075(551)5555  
南プライトホール (堀川八条) 京都市南区堀川通八条下西側 ☎075(662)0042  
西プライトホール (五条西大路) 京都市右京区五条通西大路西入南側 ☎075(322)0042  
烏丸プライトホール (因幡薬師) 京都市下京区烏丸高辻南入東入 ☎075(351)7724  
宇治プライトホール (宇治横島) 宇治市横島町(京都文教大学前) ☎0774(20)0042  
滋賀プライトホール (大津) 大津朝日が丘1丁目 ☎077(523)0042

葬 儀

— 人生の終り、もうひとつの門出を美しく —

# 玉泉院

株式会社 セレマ

もよりの営業所へご連絡ください。(24時間営業)  
寝台自動車のご用命も承ります。

京都営業所 ☎(075) 682-4444  
宇治営業所 ☎(0774) 32-4242  
向日営業所 ☎(075) 921-4444  
大津営業所 ☎(077) 524-4444  
亀岡営業所 ☎(0771) 22-0042

経済産業大臣認可/全日本葬祭業協同組合連合会加盟  
京都中央葬祭業協同組合員名簿  
http://www.kyosokyou.jp/



信頼と安心の  
全葬連 葬祭サービスガイドライン  
●事前相談 ●サービス内容の説明 ●明瞭価格 ●アフターサービス  
京葬協は、葬祭サービスガイドラインを遵守いたします

会 社	代 表 者	電 話	所 在 地	会 社	代 表 者	電 話	所 在 地
㈱ まる い ち	小林 静男	075-441-6254	上京区千本上立売通竹庵町518	㈱ 山 長	山田 一	075-861-1422	右京区太秦西峰岡町1
浅井 厚生社	浅井 宣壹	075-811-3821	中京区旧二条通千本西入ル	㈱ ア シ ス	岡本 研三	075-932-4242	向日市寺戸町西田中瀬3
(有) 京 都 日 葬	九谷田 満雄	075-811-4242	中京区西ノ京塚本町13-11	㈱ 乙 訓	菜島 康男	075-952-1520	長岡京市奥海印寺東山15-7
花 安	吉村 和	075-463-7276	中京区西ノ京御奥岡町20	(有) 城陽葬祭杉村	杉村 等	0774-52-2140	城陽市久世南垣内116
㈱ 公 益 社	松井 昭憲	075-221-4000	中京区烏丸六角上饅頭屋町608	㈱ 宇治葬祭篤辰	木村 登志雄	0774-31-8072	宇治市五ヶ庄芝の東53
㈱ 京都セレモニ	松井 昭憲	075-221-8400	中京区烏丸六角上饅頭屋町608	山城葬祭㈱現丸屋	小川 保善	0774-82-2064	綴喜郡井手町井手柏原83-2
京 都 儀 啓 社	綾見 勝	075-371-6269	下京区西新屋敷中堂寺町68-2	花 福	福田 善文	0774-82-2016	綴喜郡井手町井手宮ノ本89
北 上 葬 儀 社	北上 禮子	075-561-8542	東山区本町五条上金屋町552	(有) 花 杉	山下 博司	0774-62-0445	京田辺市田辺針ヶ池1-1
㈱ 公益サービスセンター	松井 信五	075-551-3422	東山区清閑寺山ノ内町46-2	(有) 阪 口	阪口 仁	0774-76-2146	木津川市加茂町駅西1-5-3
篤 政	滝口 泰彦	075-691-0826	南区竹田街道大石橋上ル西側	平城 公益 ㈱	西川 弘人	0774-72-5709	木津川市相楽鳥井7-1
洛王セレモニ(㈱)	北村 昌夫	075-933-4242	南区久世高田町35-3	㈱ 松本仏具店	松本 光雄	0771-22-0279	亀岡市安町86
あ め 直	阪邊 賀津子	075-611-0400	伏見区京町六丁目54-1	(有) いちたに	一谷 和弘	0771-62-4949	南丹市園部町小山東町水無38
あ す 華 葬 祭	児 嶋 彦 任	075-621-4279	伏見区深草大亀谷古御香町150-8	㈱ セレモニ-まつだ	松田 政一	0772-46-2264	与謝郡与謝野町宇字956
㈱ のじり葬儀店	野 尻 智 美	075-611-4211	伏見区京町七丁目45-1	お の え ㈱	尾上 康 則	0772-42-5555	与謝郡与謝野町算所229-1
篤 友	野 口 勇	075-631-2113	伏見区淀下津町105-1	(有) 向 井 葬 祭	向 井 文 男	0772-72-2002	京丹後市網野町網野3156

最近のお葬式はどのように行われているか、また、費用はいくら位かかるか！ など、お葬式の内容を知りたい方は、上記の各店へ電話でお問い合わせ下さい。

各界一般会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は何かと本会の活動に対し、ご理解、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして賛助会員につきましては年々増え続けておりまして有り難いことと存じます。当会も各界のみなさまとともにこの歴史と伝統のある京都において様々に交流や文化事業を通じ、よりよい京都に発展すべく努力して参りたいと存じます。当会の会報を年二回お送り申し上げますことや諸行事のご案内をみなさまとの情報交換の場とし、今後も活動をしてゆきたいと存じます。各位におかれましては、なにとぞこの趣旨にご賛助賜り平成二十三年度分の賛助会費のご納入をよろしくお願い申し上げます。次第でございます。なおご納入は同封の郵便振替にてよろしくお願い申し上げます。

### 賛助会費

当会もおかげさまでましまして仏教諸行事、文化福祉、研究活動等順調にかつ積極的に推移してきております。これもひとえにご寺院各位のご理解ご協力の賜物と存じます。今後はますます京都が宗教都市として発展しつづけるために、布教・広宣を行い、また多様化する現代社会の情報提供や宗教法人に関する諸問題につきましてもお役に立てるようはかつて参りたいと存じます。つきましては通信費の一部として平成二十三年度分の会費を同封の郵便振替にてご納入の程、よろしくお願い申し上げます。

### 寺院会費

京表具

表具全般 古書画修復

# 前田秀畹堂

〒604-8121  
京都市中京区柳馬場通錦小路上ル  
TEL.FAX.075(221)5754

発行日 平成二十四年一月三十一日  
発行所 京都仏教会  
〒602-0898 京都市上京区今出川通  
烏丸東入相國寺門前町  
六八四一  
電話 (075) 二二二六九七五  
FAX (075) 二二二六九七六  
印刷所 (株) 精巧社

授与品・記念品・その他一式

# 井筒授与品店

井筒

〒601-8348  
京都市南区吉祥院観音堂町23番地  
E-Mail:izutsu5@iz2.co.jp

TEL 0120-075-820  
FAX 0120-075-890

# 開運曆

檀信徒配布等にご利用下さい。

1部 価格85円  
(郵送いたします)

申し込みは  
京都仏教会  
TEL 075-223-6975

心と魂の和食  
南禅寺 一玄

営業時間 / (都合により変更する場合があります)  
**11:30~22:00**

お問合せ /  
**075-722-3405**

Produced by **あまのり** 本舗

心和むひととき……

名物ゆどうふ

**南禅寺 順心**

清水寺店  
清水寺門前……TEL (075) 541-7111

粟田口店  
粟田口三条上ル……TEL (075) 761-6161

祇園山かがり火  
円山公園駐車場前……TEL (075) 541-0002

左京区南禅寺門前 TEL (075) 761-2311  
FAX (075) 751-8812

京念珠® 各宗珠数 各種玉類 製造卸

弊店は珠数製造卸業です。小売は行って居りません。

京都・中珠数屋町  
株式会社 **神戸珠数店**

〒600-8153 京都市下京区正面通烏丸東入  
電話 (075) 371-3929(代)  
FAX (075) 371-3930  
定休日 日曜・祝祭日・第二第四土曜

京石塔  
石工事  
石念碑

**石寅**®  
株式会社

石工事・土木工事・造園工事 (京都府知事認可)

本店 (〒616-8376) 京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町1-10  
電話 (075) 881-1481番 FAX (075) 881-1480番

新丸太町店 (〒616-8305) 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町34-2  
電話 (075) 882-2124番 FAX (075) 882-2128番

丹波営業所 (〒622-0211) 京都府船井郡丹波町上野中野31-1  
電話 (0771) 82-2681番 FAX (0771) 82-2751番

石寅ホームページ URL: <http://www.ishitora.co.jp/>

筆・墨・硯・紙・簡易表装・短冊  
色紙・中国製筆・墨・硯・紙

株式会社 **松栞園**

〒600-8075  
京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル  
電話 (075) 351-6380(代表)  
FAX (075) 361-8006

全響北尾石材

URL: [www.good-stone.com](http://www.good-stone.com)

大原店 / 八潮店 / 市原野店 / 京北店

TEL 075-781-9523 FAX 075-781-0510  
〒608-8225 京都市左京区東大路百萬遍止る東側

社寺建築設計施工

**伸和建設株式会社**

代表取締役 北尾行弘

〒615 京都市右京区西院上花田町21-0007 (西大路三条西入ル南側)  
電話 075-311-0054 (代表)  
FAX 075-322-0152

展示装飾・ディスプレイ・  
美術看板プラスチック加工  
企画・設計・施工

有限会社 **タカオ工芸**

営業所 京都市中京区寺町通夷川上ル  
TEL 231-2555 FAX 231-2564

工場 京都市山科区大塚野溝町  
TEL 581-0191 FAX 595-5260

税理士法人 **古都**

〒600-8431  
京都市下京区綾小路通室町西入る  
善長寺町139番地AMI四条烏丸ビル405号  
TEL・FAX: 075(352)7778  
E-mail: [nakamasa@bridge.ocn.ne.jp](mailto:nakamasa@bridge.ocn.ne.jp)

文化財建造物修復・社寺建築設計施工

**木澤工務店**

代表取締役社長 木澤善之  
代表取締役会長 木澤源平 専務取締役 木澤善和

本社 京都市左京区浄土寺真如町111番地-1  
TEL (075) 751-0628(代) FAX (075) 752-9430

営業所・工場 滋賀県愛知郡愛荘町中宿173番地  
TEL (0749) 42-2859(代) FAX (0749) 42-5727

お墓の事ならなんなりと

一般建設業の許可：京都府知事 許可(般-23)第38917号

石のカウンセラー **都** みやこ  
株式会社 **石棧** やこ

遠近を問わず  
お伺い致します  
(見積り無料)

ヨクゾ ヨイイシ  
☎ (075) 491-4114(代) FAX (075) 491-2426  
京都市北区小山北玄以町24番地 (上賀茂橋西詰バス停前)

京 表 具

こう えつ あん

**浩悦庵**

古文化財保存修理研究所 (有) 矢口浩悦庵

本社 工房：〒602-8025 京都市上京区衣棚通り丸太町上る今薬屋町318番地  
TEL (075) 254-6021(代)・FAX (075) 254-6022

東京営業所：TEL・FAX (0424) 72-6239 <http://www.koetsuan.com/>



世界文化遺産 二条城のほitori  
ロビーに一步入れば  
やすらぎと寛ぎのひとときがそこに・・・  
スタッフ一同、心よりお待ち申し上げます。

**京都全日空ホテル**  
〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前  
Phone (075) 231-1155 (代表)



ANA HOTEL KYOTO  
<http://www.ana-hkyoto.com>



福井藩邸跡に建ち、二条城の正面に  
位置する最高のロケーション。  
ホテル敷地内には風雅な日本庭園があり、  
やすらぎとくつろぎを満たしてくれます。

**京都国際ホテル**

〒604-8502 京都市中京区堀川通二条城前  
Tel.075-222-1111(代) Fax.075-231-9381



**美しいくつろぎのとき、ひときわ**

ゆったりとした客室、趣のあるレストラン、京の風情たどる日本庭園の茶室、  
7つの多彩な宴会場など、きめこまやかなサービスで、  
美しいくつろぎのひとときをお手伝いいたします。

ご宿泊、ご宴会、レストラン、ご婚礼、催しもの楽しい情報はホームページから  
[www.princehotels.co.jp/kyoto](http://www.princehotels.co.jp/kyoto)

**グランドプリンスホテル京都** 〒606-8505 京都府京都市左京区宝ヶ池  
TEL: 075-712-1111 FAX: 075-712-7677

インターネットナンバー 020-8888 | モード・EZweb・Yahoo!ケータイ・Lモードの公式サイトからご利用いただけます。

でかける人々、ほほえむ人々へ。西武グループ



**伝統の心を映した  
古都のやすらぎ**

ご宿泊や、おくつろぎのひとときに  
また、会合などさまざまなお集まりに、  
お気軽にご利用ください。

ご予約・お問い合わせは  
◆東急ホテルズ予約センター◆  
東京予約センター Tel.(03)3462-0109  
札幌予約センター Tel.(011)533-1090  
名古屋予約センター Tel.(052)202-1090  
大阪予約センター Tel.(06)6314-1090  
福岡予約センター Tel.(092)262-1099

**京都 東急ホテル**  
〒600-8519 京都市下京区堀川通五条下ル(西本願寺北側)  
Tel: 075-341-2411 Fax: 075-341-2488  
[www.kyoto-h.tokyuhotels.co.jp](http://www.kyoto-h.tokyuhotels.co.jp)



いつも新しい感動を  
**京都ブライトンホテル**

京都ブライトンホテルは京都御所の西、閑静な住宅街にあります  
ここは、かつて千利休や樂長次郎が行き交ったであろう文化の中心地  
この場所にふさわしく、新しい文化発信基地となるよう  
よりよい商品とサービスを提供し続けてまいります

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)  
Tel.075-441-4411(代) Fax.075-431-2360  
<http://www.brightonhotels.co.jp/kyoto>

**古都散策のみちしるべ**  
“はんなりと流れる満ちたりたひととき”

京の川をイメージした大理石のロビー  
エレガントな雰囲気のある客室  
一流シェフの味が堪能できるレストラン  
細やかな情報をご案内する京都観光デスク  
静けさとやすらぎが、ここからはじまる古都の一日

**京都新阪急ホテル**

TEL(075)343-5300 FAX(075)343-5324 URL <http://hotel.kyoto-newhankyu.co.jp>

**精進料理**

上 うえ 幸 こう

〒604-8503 京都市中京区大宮通り錦上ル  
電話 (075) 821-3872  
(075) 821-3837

■ 初期火災予防対策

火災対策は万全でしょうか？

文化庁は全国の主な重要文化財の防火状況に関する初の緊急調査を行うことを決めました。相次ぐ歴史的な文化財の火災を受けた対応です。弊社では、初期火災予防対策として、ファイヤーレターデント防燃水の噴霧難燃処理を承っております。一般住宅から神社、仏閣までさまざまな既設建物への難燃処理剤として50万平米超の使用実績を有しております。



■ 借地管理

借地管理でお困りではありませんか？

弊社では、顧問弁護士 橋口 玲(京都仏教会様顧問弁護士)他、司法書士、土地家屋調査士、宅地建物取引主任者などの専門スタッフを揃え、円滑な借地運営のお手伝いをさせて頂いております。現在、管理実績は、700戸超です。

\*相談、資料請求は無料ですので、お気軽にお問い合わせ下さい。  
**株式会社 玄武管財** TEL 075-411-1214 FAX 075-411-1241  
京都市上京区相国寺門前町6 4 7 番地1 E-mail:info@kyoto-genbu.co.jp <http://www.kyoto-genbu.co.jp/>